

じざいじんじゃだいだいかぐら
「自在神社太々神楽」

町指定無形民俗文化財

所在地：大字上平（自在神社） 保持団体：自在神社太々神楽保存会 指定：昭和48年3月14日

この太々神楽は自在山（岩井堂山）中腹の自在神社に、春季例祭（4月第4日曜日）に上平区の氏子によって、奉納されています。祭神は大己貴命で、村上義光公が合祀され、明治42年に上浦、島、小野沢に散在していた12社が合祀されています。この社は古来、村上氏の崇敬があつく同族の出浦氏の産土神であり、出陣にあたって社頭で神楽を舞ったものといわれます。現在の太々神楽は明治中期以降に復興されたもので、明治21年（1888）ごろ祭典が盛大になるにしたがい、氏子の大橋代太郎氏（1855～1920）などが中心となって、戸隠神社の太々神楽を学んできて春祭に奉納されました。大正11年（1922）ころは最も盛大で、太々講は百講をこえたといえます。後継者を得て今日に伝えられています。

舞は櫛の舞、鉾の舞、扇の舞、剣の舞、大道の舞、翁の舞、岩戸開の舞、撒供の舞の、8座で構成されています。

舞は単純にして、しかも優雅な楽と、悪魔退散の舞、神話につながる舞など、先人により伝えられた郷土の芸能です。

なお、神楽の楽譜は信州大学教育学部の村杉弘教授により採譜されています。

